

Ⅱ 刈谷市の状況

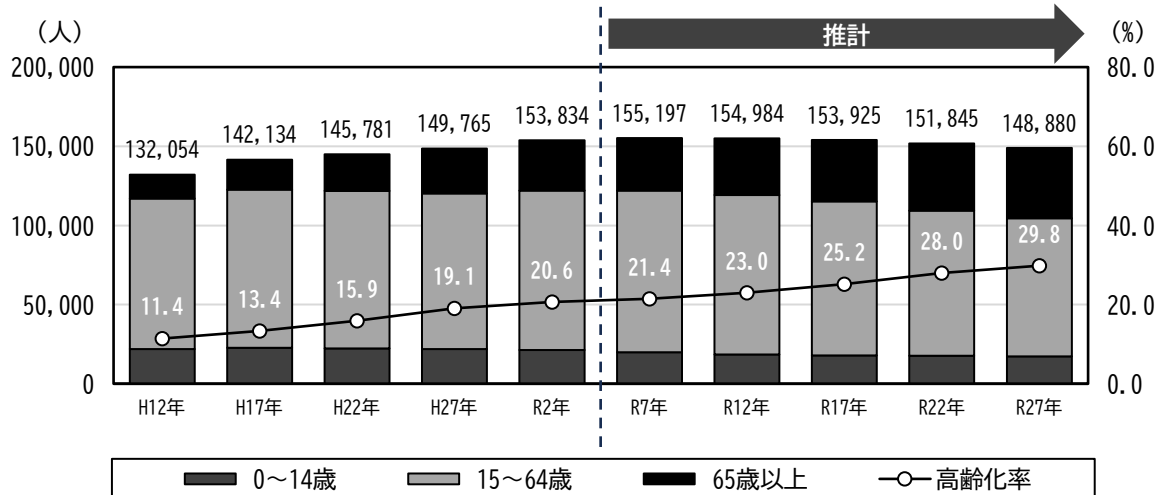
1. 人口と世帯の状況

(1) 人口の状況

本市の総人口（国勢調査）は年々増加傾向にあり、令和2年（2020年）では、153,834人となっていますが、将来的には減少に転じることが予測されています。また、年々高齢化率が上昇傾向にあるため、若年層の割合は減少しています。高齢化率は令和27年（2045年）には29.8%になる見込みです。

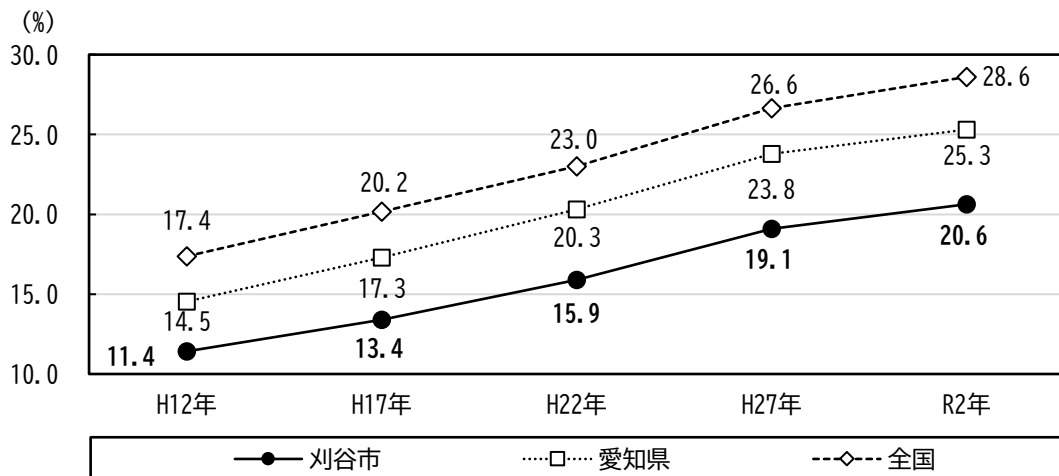
高齢化率を全国、愛知県と比較すると、低い水準で推移しています。

■年齢3区分別人口の推移・推計（刈谷市）



資料：令和2年までは国勢調査、令和7年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

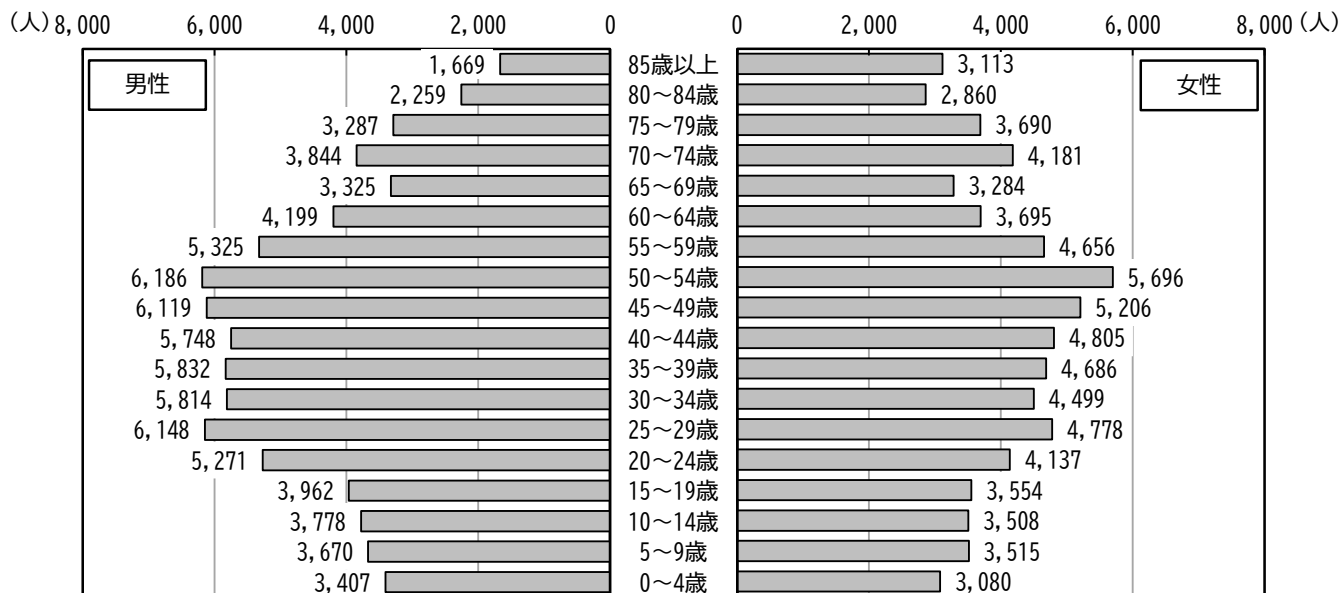
■高齢化率の推移（国、県、刈谷市）



資料：国勢調査（総数から年齢不詳を除いた割合）

本市の人口ピラミッドをみると、男女とも生産年齢人口（15～64歳）の層が多く、特に男性の若い世代が多い人口構造になっています。

■人口ピラミッド（刈谷市）

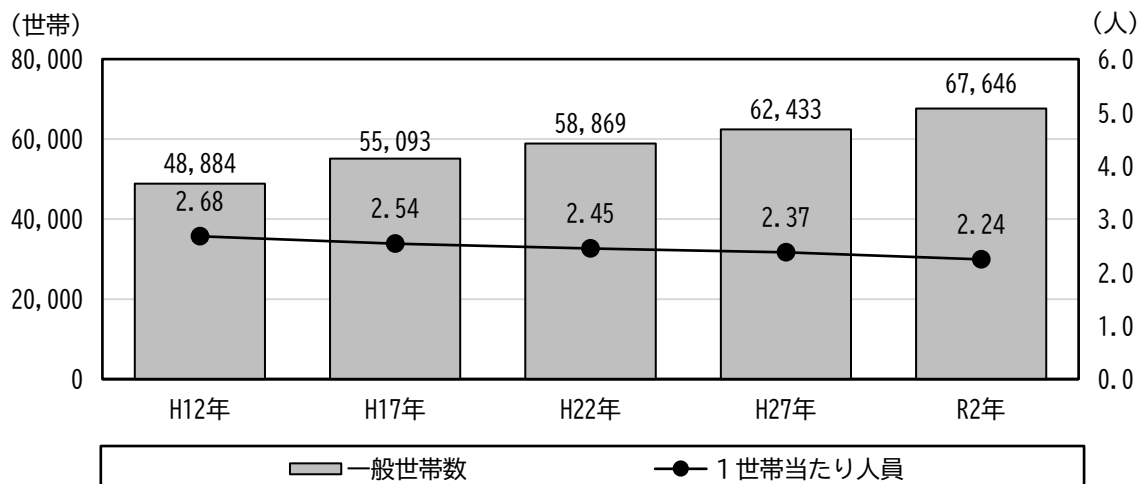


資料：住民基本台帳人口（令和5年10月1日）

（2）世帯の状況

本市の一般世帯数は年々増加し、令和2年（2020年）では67,646世帯となっています。一方、1世帯当たり人員は年々減少し、世帯の小規模化が進んでいます。令和2年（2020年）の1世帯当たり人員は2.24人となっています。

■一般世帯数、1世帯当たり人員の推移（刈谷市）

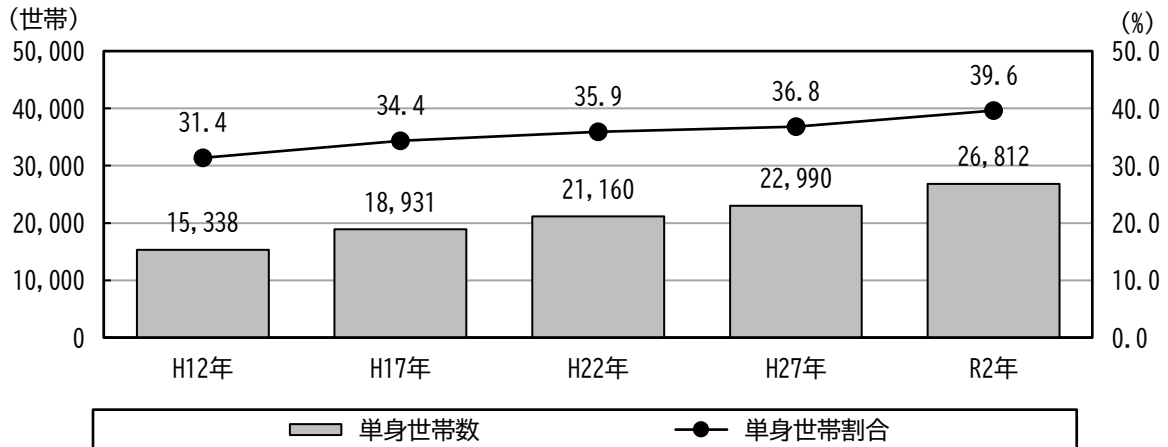


資料：国勢調査

世帯の小規模化に伴い、本市の単身世帯数は増加傾向にあり、令和2年（2020年）では、26,812世帯となり、一般世帯数に占める割合は39.6%となっています。性・年代別でみると、男性の15～39歳での値が最も高くなっています。

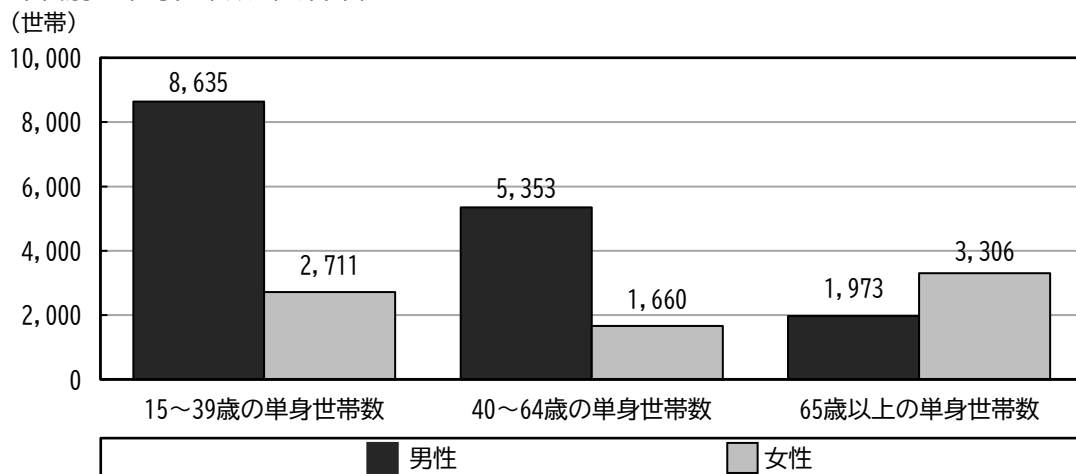
高齢化の進展に伴い、高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみ世帯）数、高齢単身世帯数も増加傾向にあります。

■単身世帯数、単身世帯割合の推移（刈谷市）



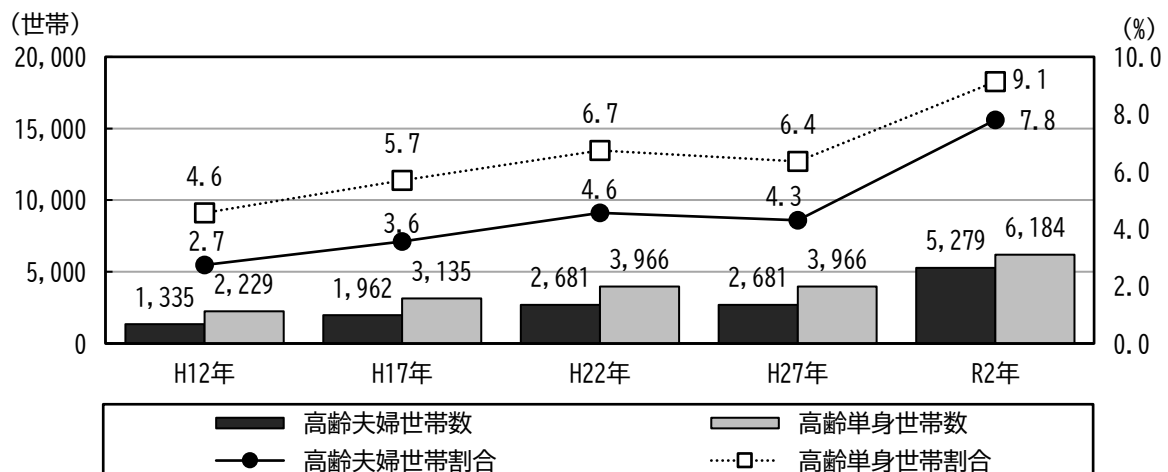
資料：国勢調査

■性・年代別の単身世帯数（刈谷市）



資料：国勢調査（令和2年）

■高齢夫婦世帯数、高齢単身世帯数、高齢夫婦世帯割合、高齢単身世帯割合の推移（刈谷市）



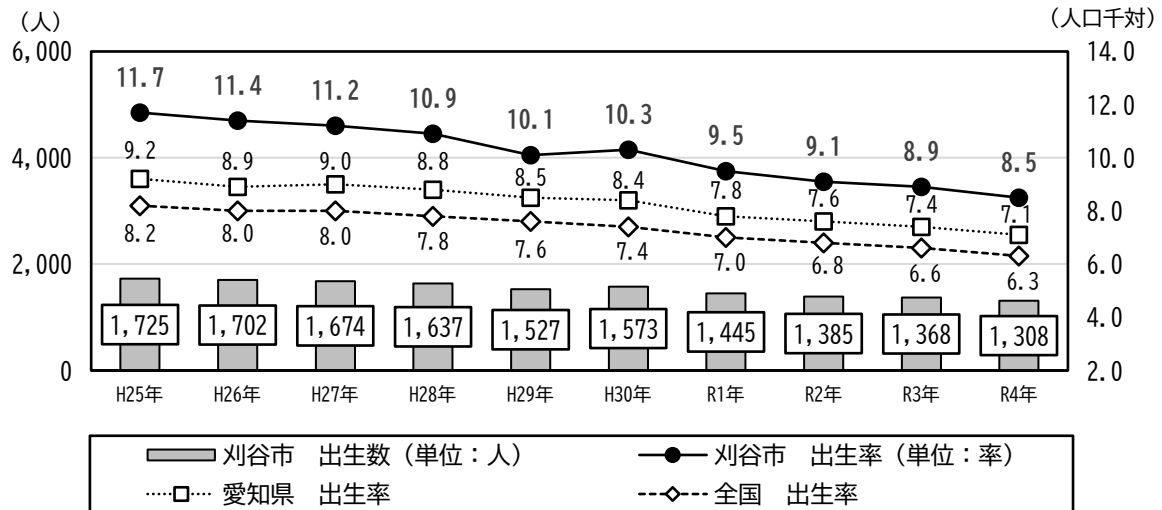
資料：国勢調査

2. 出生の状況

本市の出生数は減少傾向にあり、令和4年（2022年）では1,308人と、平成25年（2013年）と比較すると約25%減となっています。人口千人当たりの出生率は低下傾向にあるものの、全国、愛知県と比較すると高い値で推移しています。

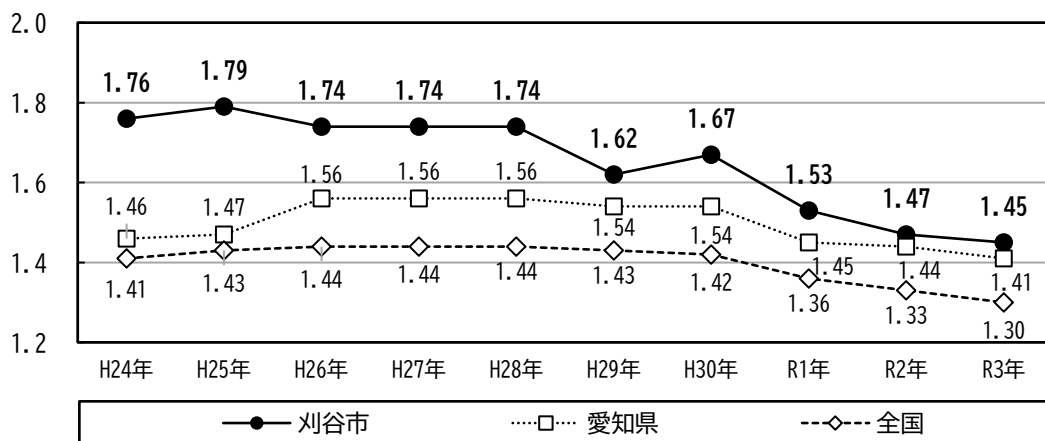
合計特殊出生率についても全国、愛知県より高い水準で推移していますが、その差は小さくなっており、人口の維持に必要な2.07には達していません。

■出生数・出生率の推移（国、県、刈谷市）



資料：人口動態調査

■合計特殊出生率の推移（国、県、刈谷市）



資料：人口動態調査、愛知県の人口動態統計、子育て支援課

3. 死亡の状況

(1) 主要な死因

本市の主な死因としては、悪性新生物（がん）の割合が最も高くなっています。3大疾病の割合は4割を超えていますが、全国、愛知県と比較すると低い水準となっています。

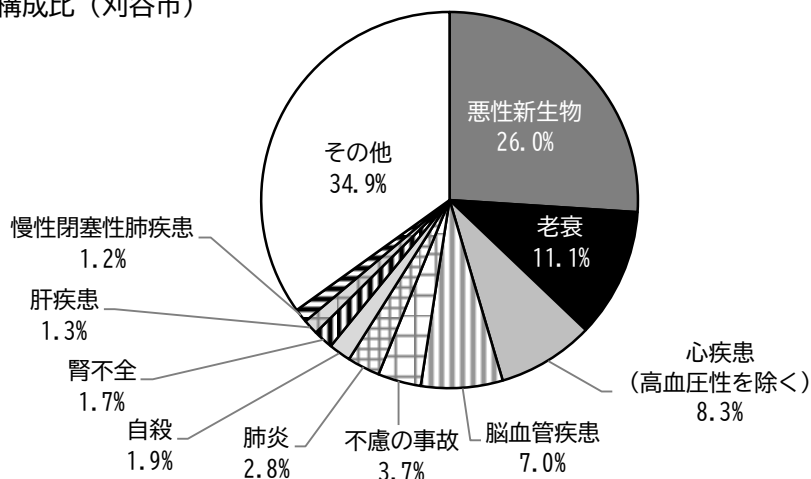
■全死亡に占める主要死因の割合（国、県、刈谷市）

	刈谷市		愛知県	全国
	人数	割合	割合	割合
悪性新生物（がん）	313人	26.0%	27.2%	26.5%
老衰	133人	11.1%	12.2%	10.6%
心疾患（高血圧性を除く）	100人	8.3%	11.9%	14.9%
脳血管疾患	84人	7.0%	6.6%	7.3%
不慮の事故	44人	3.7%	2.7%	2.7%
肺炎	34人	2.8%	4.5%	5.1%
自殺	23人	1.9%	1.5%	1.4%
腎不全	21人	1.7%	1.8%	2.0%
肝疾患	16人	1.3%	1.2%	1.3%
慢性閉塞性肺疾患	14人	1.2%	1.0%	1.1%
その他	420人	34.9%	29.5%	27.2%
3大疾病（悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患）	497人	41.3%	45.7%	48.7%
合計	1,202人	-	-	-

※割合は全死因に占める割合で、少数点第二位を四捨五入しているため、割合の合計は100%とならない場合がある。

資料：人口動態調査、愛知県衛生年報（令和3年版）

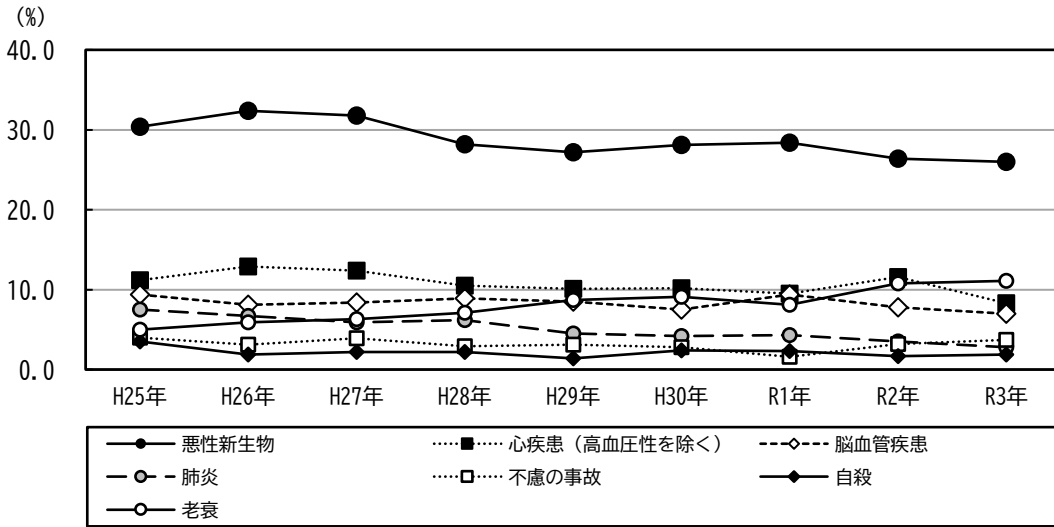
■主要死因の構成比（刈谷市）



資料：人口動態調査、愛知県衛生年報（令和3年版）

令和3年(2021年)の本市の主な死因は、悪性新生物(がん)、老衰、心疾患(高血圧性を除く)、脳血管疾患の順となっており、とりわけ「老衰」の割合は、ここ10年で増加傾向にあります。

■全死亡に占める主要死因の割合の推移(刈谷市)

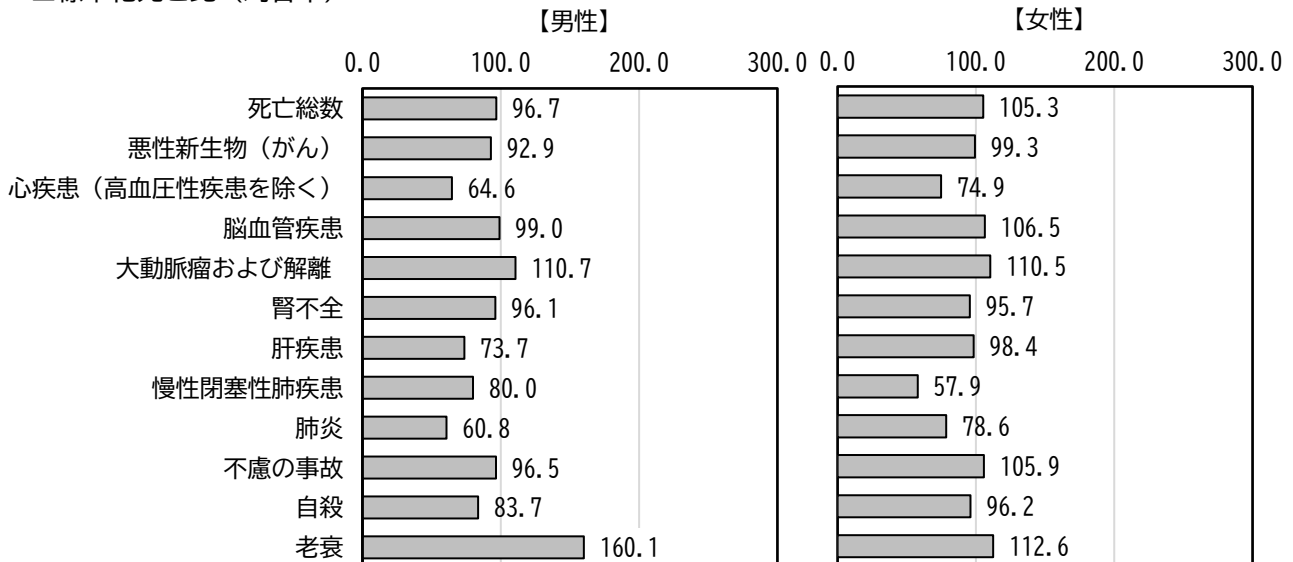


資料：人口動態調査、愛知県衛生年報

(2) 標準化死亡比* (バイズ推定値)

本市の標準化死亡比をみると、全国より高い疾病は、男性では「大動脈瘤および解離」、「老衰」、女性では「脳血管疾患」、「大動脈瘤および解離」、「不慮の事故」、「老衰」で、男女とも「老衰」が最も高くなっています。

■標準化死亡比(刈谷市)



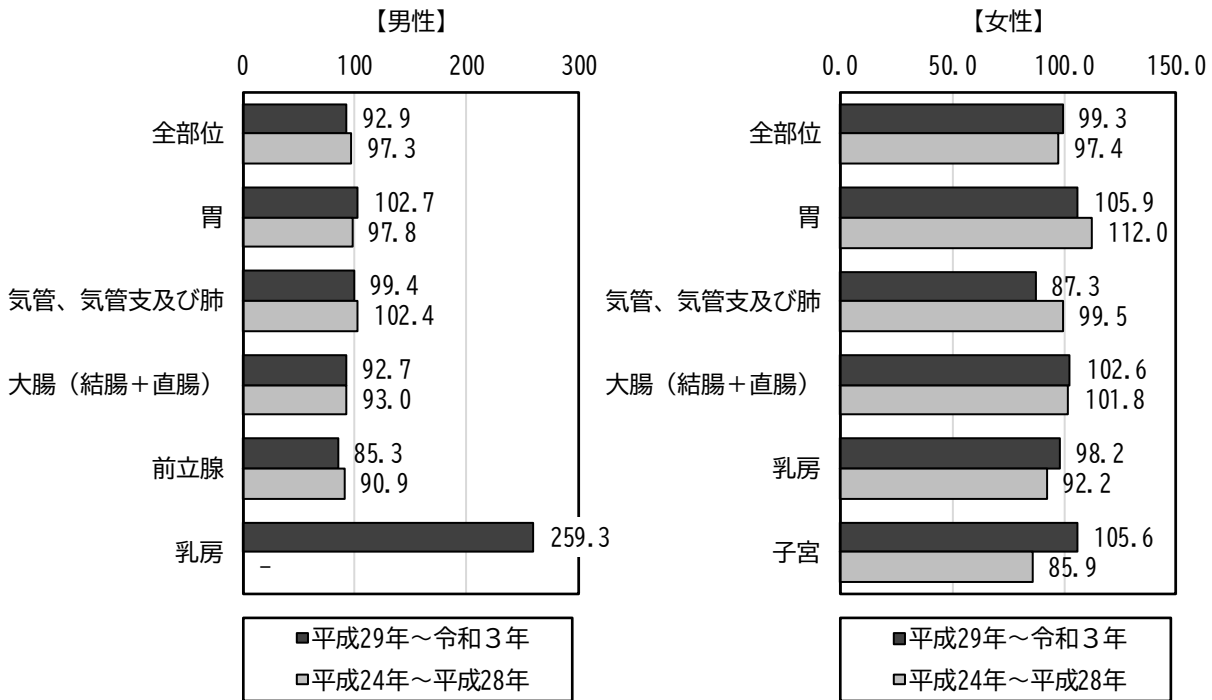
資料：愛知県衛生研究所(平成29年~令和3年)

*標準化死亡比とは、各地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出された各地域の期待される死亡数に対するその地域の実際の死亡数の比のことで、年齢構成の違いの影響を除いて死亡率を全国と比較したものの。標準化死亡比が基準値(100)より大きいということは、その地域の死亡率が全国より高いということを意味し、基準値より小さいということは、全国より低いということを意味する。

部位別に悪性新生物の標準化死亡比をみると、男性では「乳房」が最も高くなっていますが、男性の乳がんは極めて稀な疾患であるため標準化死亡比が高く算出されています。そのほかでみると、男性は「胃」、女性は「胃」、「大腸（結腸+直腸）」、「子宮」が全国よりも高くなっています。

また、平成29年（2017年）～令和3年（2021年）の数値を平成24年（2012年）～平成28年（2016年）の数値と比べると、男性では「胃」が上昇し、女性では「全部位」、「大腸（結腸+直腸）」、「乳房」、「子宮」が上昇しています。

■部位別悪性新生物標準化死亡比の経年比較（刈谷市）



資料：愛知県衛生研究所

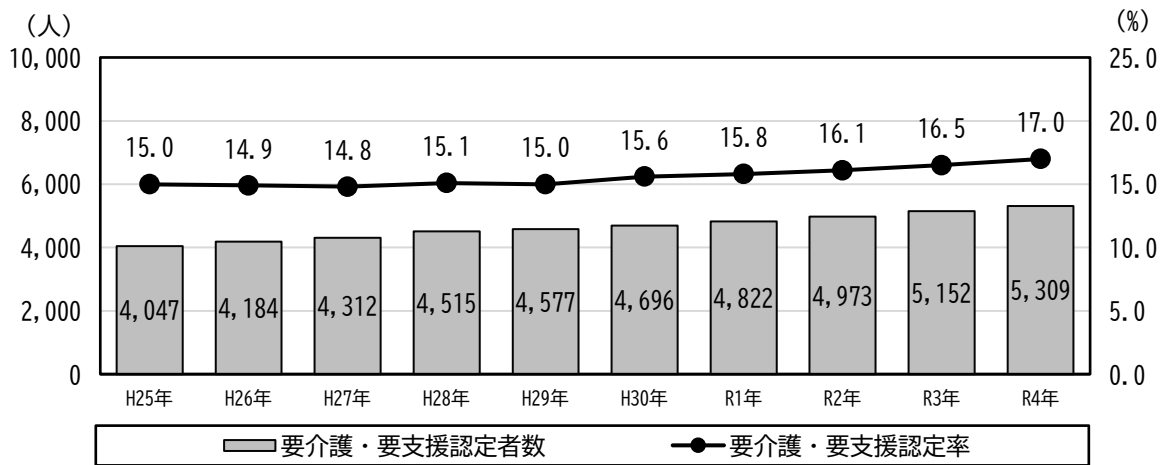
4. 介護をめぐる状況

(1) 要介護・要支援認定の状況

本市の要介護・要支援認定者数は年々増加し、令和4年（2022年）では5,309人となっています。要介護・要支援認定率もおおむね上昇傾向にあり、令和4年（2022年）では17.0%となっています。

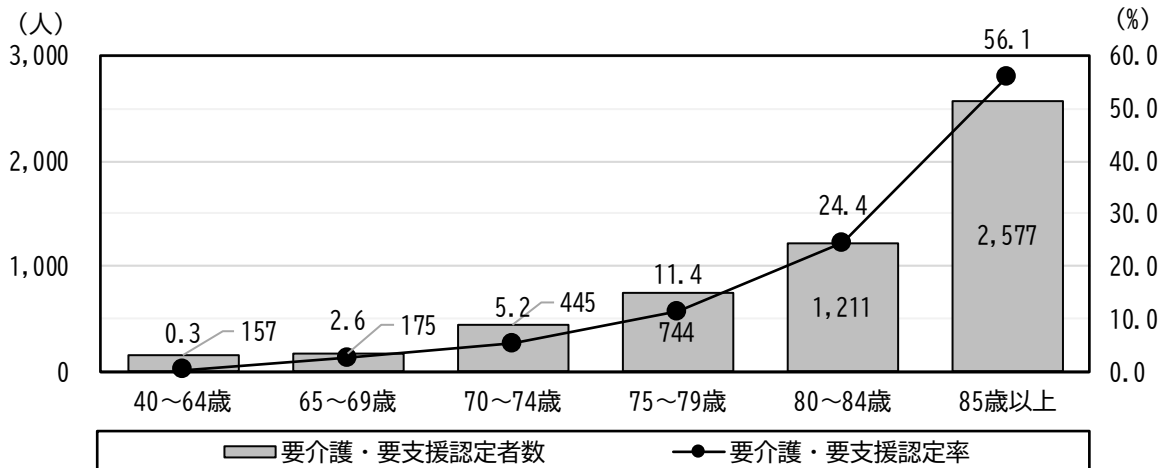
年齢区別に要介護・要支援認定者数をみると、85歳以上から急増する傾向がみられ、85歳以上での要介護・要支援認定率は56.1%となっています。

■要介護・要支援認定者数、認定率の推移（刈谷市）



資料：介護保険事業状況報告（各年10月1日時点）

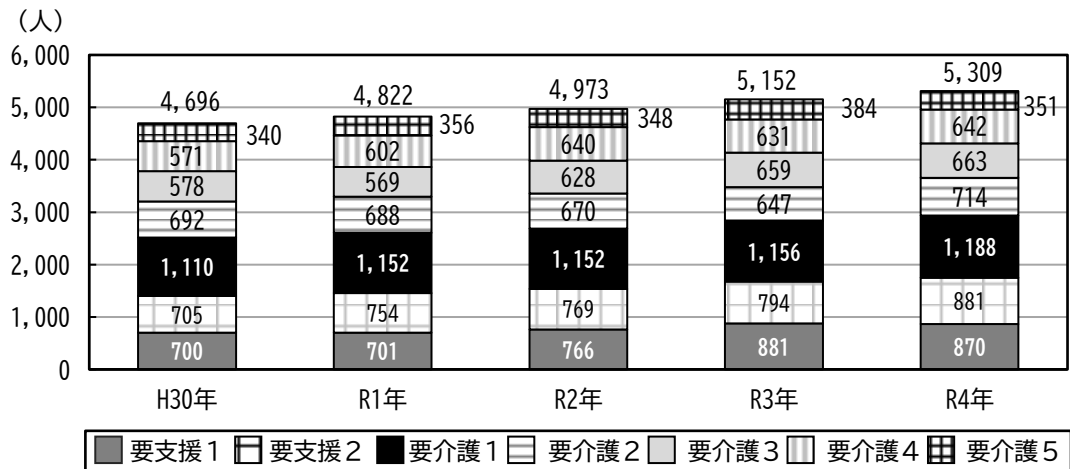
■年齢区別要介護・要支援認定者数、認定率の割合（刈谷市）



資料：介護保険事業状況報告（令和4年度）

本市の要介護・要支援認定者数を要介護度別で見ると、各年とも要介護1が最も多くなっています。要介護3以上についてみると、年々おおむね増加傾向にあります。

■介護度別要介護・要支援認定者数の推移（刈谷市）

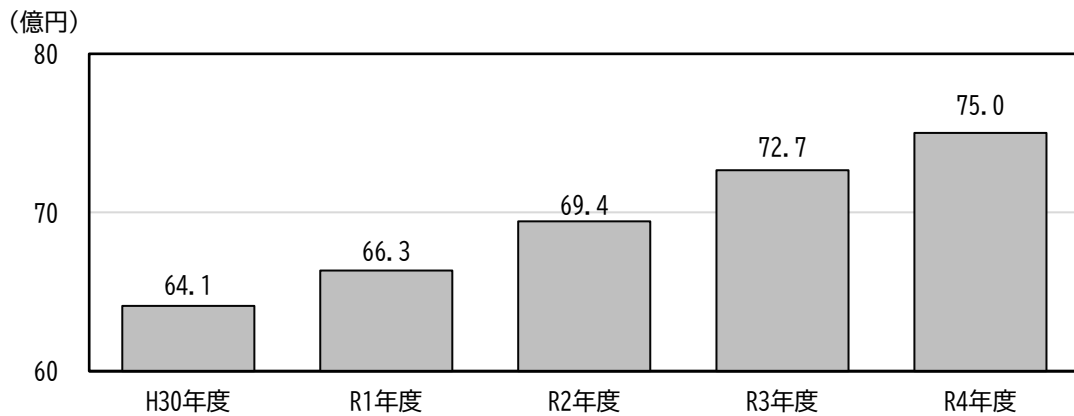


資料：介護保険事業状況報告（各年10月1日）

（2）介護給付費の状況

本市の介護給付費は年々増加し、令和4年度（2022年度）では約75億円となっています。

■介護給付費の推移（刈谷市）



資料：介護保険事業状況報告

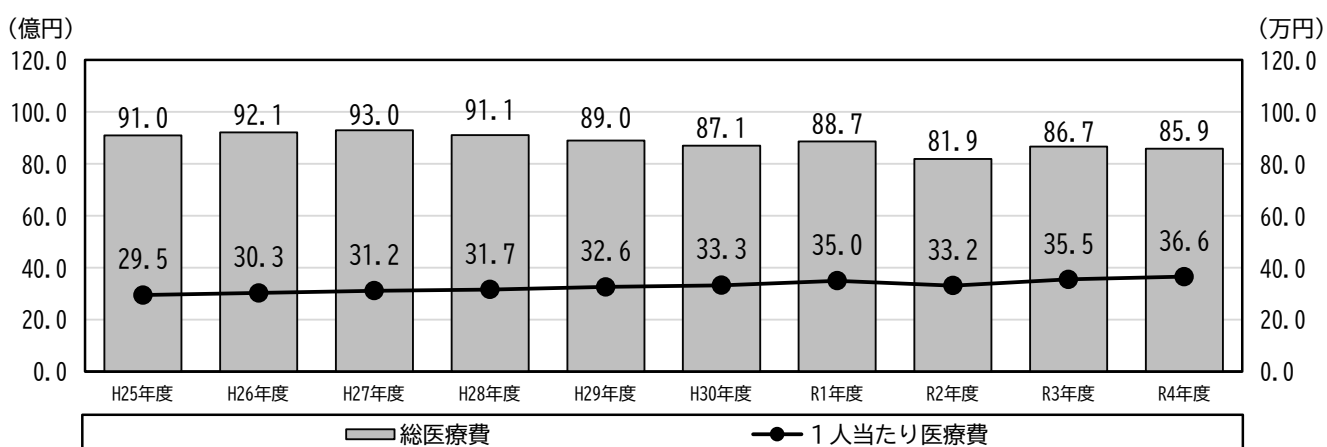
5. 医療費の状況

(1) 国民健康保険の状況

刈谷市国民健康保険の総医療費は、社会保険の適用拡大や団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行による被保険者数の減少に伴い、徐々に減少しています。しかしながら、1人当たり医療費は、おおむね増加傾向にあり、令和4年度（2022年度）では36.6万円となっています。

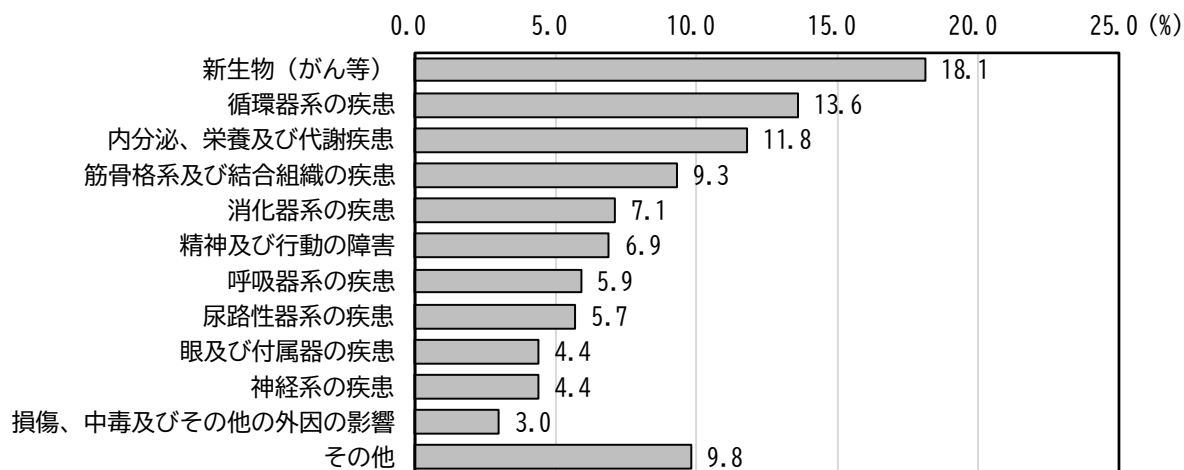
疾病分類別の医療費割合では、「新生物」、「循環器系の疾患」が上位となっています。

■国民健康保険の総医療費と1人当たり医療費の推移（刈谷市）



資料：国保年金課

■国民健康保険における疾病分類別医療費割合（刈谷市）

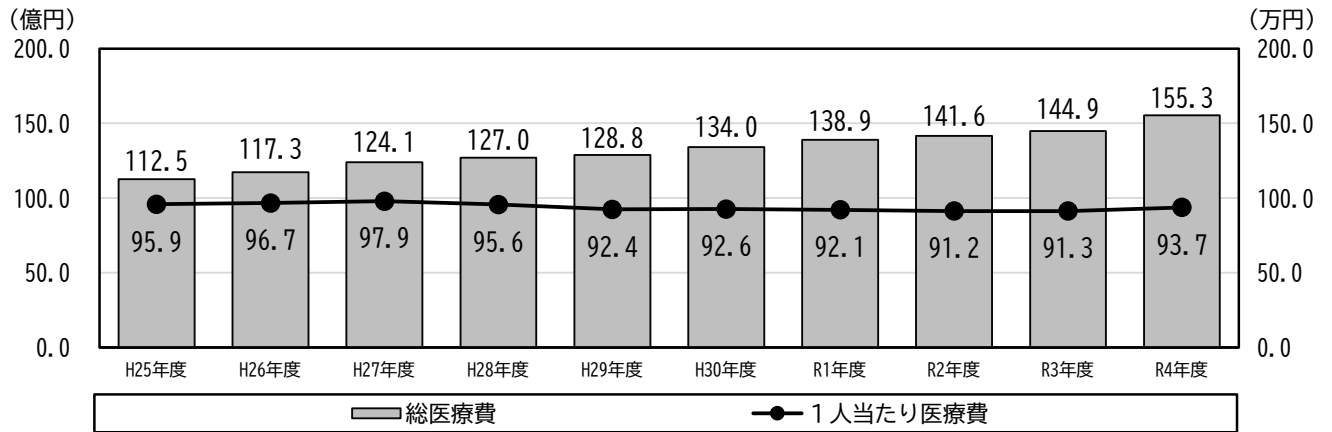


資料：国保年金課（令和4年度）

(2) 後期高齢者医療制度の状況

本市における後期高齢者医療制度の総医療費は、被保険者数の増加に伴い年々増加し、令和4年度(2022年度)では約155億円となっています。1人当たり医療費は令和4年度(2022年度)では93.7万円となっています。

■後期高齢者医療制度の総医療費と1人当たり医療費の推移(刈谷市)



資料：国保年金課